

平成29年度 自己評価アンケートまとめ
 社会福祉法人ほどがや ゆめっこらぶ

職員による自己評価(抜粋)

バリアフリー化されていない部分が多く(建物の構造上)、年配の保御者の方や、兄弟児がいる方はお迎え時大変そうな印象を受ける。
 2フロアー(3F、4F)構成で、活動や年齢によって活動スペースを分けることが出来、10名定員の中でも手狭さを感じないスペースがある。
 外遊びがメインの活動ではあるが、お菓子作りや工作等室内活動も増えてきている。まだ1人1人のレベルに合わせるところまでは至っていない。
 他放デイとの関わりはほとんど無いが、相談やガイヘルなど他事業との関わりは多い。
 長年利用している方が多く、信頼は得ていると感じている。
 避難訓練、食料、水の備蓄はできている。

保護者による評価(抜粋)

バリアフリー化されていない、お迎えが大変(3階の為)。
 活動スペースは広い。活動スペースが狭い。
 支援級のお子さんから養護学校の子まで幅広く支援できている。
 必ず外に連れて行ってもらえるから助かる。
 もう少し室内活動を充実させてほしい。
 年齢にあった活動を提供してほしい。
 足りないと言う意見が多かった。
 またホームページや会報等で様々な情報を上げてほしいという意見もあった。
 感染症時のマニュアルはしっかりとできていて、児童やその保護者がなった時の対応がはっきりしていて感染防止に力を入れている。



事業所内での分析

<p>【共通点】 バリアフリー面、建物の構造上仕方がない部分もあるが、職員・保護者の意見がもっと一致した。 室内活動の面も概ね同じような思いを持っていると感じた。</p>	<p>【相違点】 少数だが活動スペースが狭いと感じている方も見られた。 保護者への説明の部分と、情報発信が少ないこともある。 活動内容。</p>
--	--

事業所の強み

室内スペースの広さ。
 活動内容の幅の広さ。
 地域との繋がりを意識して、外活動を積極的に行なっている。
 運営母体が社会福祉法人で他事業も展開しており、特に生活介護の現状を詳しく伝えることができる。
 あくまで子どもを第一に考え、感染症時の利用方法のマニュアルを徹底している。

事業所の改善点

バリアフリー化。
 室内活動の充実、年齢に応じた活動提供。
 情報の発信。
 職員の保護者対応、保護者が来たときの態度。しゃべり方。
 職員のスキル不足。

事業所の改善への取り組み

バリアフリーに関してはすぐには難しいが、適した物件を探していく必要がある。
 活動内容に関して、今現在不定期でお菓子作りや工作、アクセサリー作りをしているが、2ヶ月に1回程度で定期的に行い、利用者全員が参加できるようにしていく。年齢に応じた活動に関しては、中学生くらいまでは体を動かす公園遊びを主として行ないながら、徐々に買い物やスポーツを行っていく。
 職員に関して、近年求人をかけても良い人材が集まらないのが職員の質の低下の原因だと考える。現状その部分をどうにかするものは難しいので、活動前のミーティングで各職員に対し支援のレクチャーをしたり、社会人としてのマナーを教えるて行く。

アンケート配布数	アンケート回収数	回収率
24	15	62.5%